

人と人つながる活動映画に

名古屋・南医療生協



「6万人会議」を撮影する小池征人監督（右端）ら＝名古屋市緑区の南生協病院で

住民主体で、必要な医療と福祉の仕組

みづくりに取り組む「南医療生協」（本部・名古屋市緑区）の活動を追うドキュメンタリー映画「だんらんにつぼん（仮題）」の撮影が進んでいる。小池征人監督らが、組合員一人一人が「縁」を広げていく様子を伝えたいと、カメラを回している。

（野村由美子）

11月公開へ

南区から緑区に新築移転している。「主人公」に据えた際には、組合員たち「千人会議」を四年間で四十五回開いて議論した。三月の新病院開院後、同病院で開かれていた会議には、組合員や外部のNPO関係者も参加。百人以上がいくつものテーブルに分かれて話し合うこともある。「全員参加」の思いを込めて「六万人会議」と名付けられている。

こうした運営に着目した名古屋市出身の映画プロデューサー、武重邦夫さんが同生協の活動に現代社会のさまざまな問題を解くヒントがあると感じ、映画化を構想。一緒に仕事をしてきた小池監督に制作を打診した。小

「現代社会では、ともしれば自己責任論が横行し、迷惑を掛けてはいけないと萎縮する人も多い。ここには「人は迷惑を掛け合って生きているんだ」と堂々と言える空間がある。地縁や血縁ではなく、新しい『有縁社会』だと思う」と小池監督。二月中旬まで撮影を続ける。十一月公開の予定だ。

同生協常務理事の中村八重子さんは「人と人のつながりが大切と、当たり前のこととしてやってきた。そんな思いや活動が映画という形になって見てもらえるなんて、こんなうれしいことはありません」と喜ぶ。

小池監督 “有縁社会” 伝えたい

同生協には、七十六支部に六万人を超える組合員が加入。医療・福祉分野の単独生協では全国最大規模の組合員数を持つ。

一九五九年の伊勢湾台風で大きな被害を受けた名古屋市南部の市民ら「自分たちの健康は自分たちで守ろう」と出資し、診療所を設立。輪が広がって、現在は、三

百二十三床の南生協病院（同市緑区）をはじめ、星崎診療所（同市南区）、福祉村「生協のんびり村」（愛知県東海市）など、三十以上の医療、福祉、介護施設を運営する。地域ごとの茶会や食事会、健康づくりの集まりなどの活動もある。

対等の立場で話し合いを重ねることが活動の土台。昨年、南生協病院が

小池さんと撮影スタッフは昨年十月から南区内に合宿し、本格撮影を開始。新病院の様子やさまざまな会議など、組合員らの生の表情を追い続け